

平成25年度

教育成果報告発表会



教育実習内容の発表に
耳を傾ける教員たち

金沢高専の教育成果報告会が3月28日(金)に31・301合同講義室で開催された。毎年この時期に開催される本報告会は、その年度において重点的に教育実践された内容が報告される。わが国で初めてCDIOイニシアチブに加盟し、先進工学教育実践校である金沢高専の教育成果の報告であるため、全教職員が参加し次年度の自らの教育実践につなげようという熱い思いが会場の中を埋め尽くしていた。

山田弘文校長のあいさつの後、発表は第1部「グローバル化時代における高専教育」として、高橋丈雄教授が「高専教育全般」について述べた。また新年度から副校長として金沢高専をどのように運営されていくかについても述べた。次に3学科の各科長による報告で、電気電子工学科の土地邦生科長がこの1年の振り返りと、次にどう展開させていくかについて報告された。また、機械工学科の林道大教授及びグローバル情報工学科の藤澤武教授は新年度から科長として学科を運営されていくので、これからの学科の方向性について述べた。向井守副校長からは一般科目(国語・数学・理科・英語・社会等)における取り組みについての報告があった。高専における一般科目教育の難しさは後期中等教育での基礎科目から高等教育における教養科目までを5年を通して教えていくことである。各一般科目担当教員の努力を目の当たりにし、身が引きしまる思いであった。

第2部は「アクティブラーニング成果と展望」として、先進教育推進活動を重点的に実践した南出章幸教授と竹俣一也教授の報告であった。地域と連携した学生の課外活動をどのように正規授業に結びつけると効果的である

かが報告された。外部からの研究助成金を基にした教育研究活動に学生を参画させ、その成果を正規授業に還元させていく手順はこれまでにない教育モデルとなっている。また、金沢工大のプロジェクトデザイン教育を金沢高専に円滑に取り入れていく方策について実践例を示しながら述べていた。松下臣仁准教授からは「デザイン・シンキング関連テキストの開発とその適用について」が報告された。グローバル情報工学科の4年の科目「エンジニアリングマネジメント」で実践されたものである。高専学生にデザイン・シンキングを理解させる工夫が報告されており、大学低学年に対しても適用可能である内容であった。最後はロバート・ソングー講師による「CDIOスタンダードに従った学習の成果について」で、金沢高専に赴任したばかりの教職員にとってCDIOについて学ぶことができるものであり、全教職員のCDIOについての理解を徹底することにつながるものであった。

本報告会はこれまでの山田校長下での教育実践成果をまとめ、これからの金沢高専の方向性をさぐる報告会でもあり、新年度から新校長となられるルイス・パークスデール金沢工大教授も熱心に発表を聴講していた。CDIOイニシアチブで説明されている教育プログラムは、カリキュラム全体としてCDIOアプローチを満足させ、その満足のさせ方に各高等教育機関の特色が現れてくる。これから金沢高専はこの特色をどのように外部に発信していくかがポイントであり、今回の教育成果報告はこの点が明解に示されていたと思われる。